

平成 30 年度 ひきこもりに関する実態調査結果(概要版)

香川県健康福祉部障害福祉課

1 調査目的

本調査は、県内で活動されている民生委員・児童委員を対象にひきこもり等の概数等を把握し、県及び市町において施策展開を検討していくための基礎資料とすることを目的として実施した。

対象は、下記に該当する方を「ひきこもりの状態にある方」として調査の対象とした。

これは、厚生労働科学研究による『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』に基づくひきこもりの定義です。

「ひきこもりの状態にある方」
<p>様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。（他者と交わらない形での外出をしている場合も含む。） ※ただし、重度の障害、疾病、高齢等で外出できない方を除く。</p>

2 調査概要

調査対象：県内の「ひきこもりの状態にある方」

調査基準日：平成 31 年 1 月 1 日

調査方法：県内の民生委員・児童委員に対するアンケート

調査期間：平成 31 年 1 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日

回収率：

調査対象数	有効回収数	有効回収率
2,214人	1,931人	87.2%

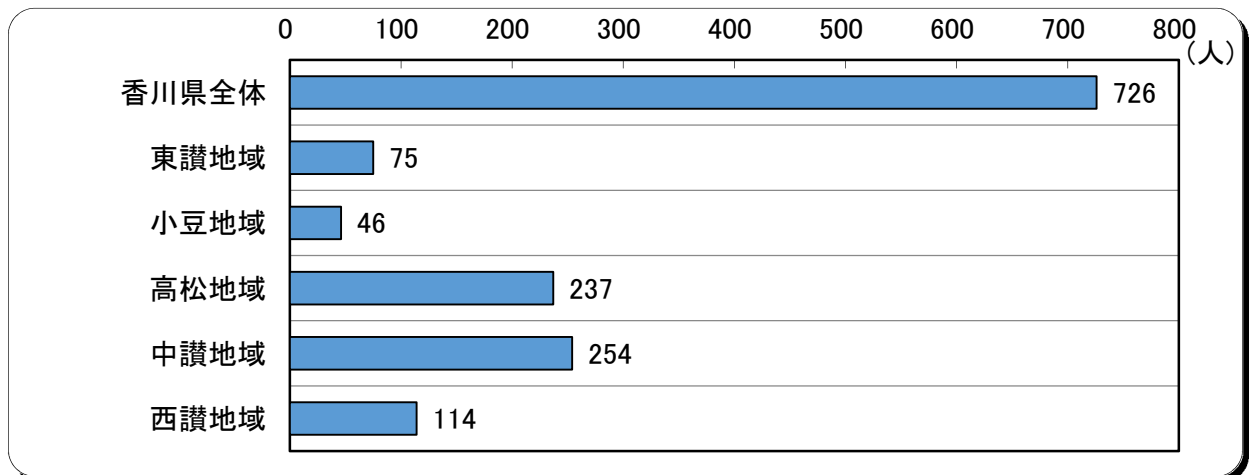
3 留意点

- ・ 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第 2 位を四捨五入しているため、百分比の合計が 100.0%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対しそれぞれの割合を示しており、その比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
- ・ 各地域の市町分類は以下のとおりである。

地域名	市町名
東讃地域	さぬき市、東かがわ市
小豆地域	土庄町、小豆島町
高松地域	高松市、三木町、直島町
中讃地域	丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町
西讃地域	観音寺市、三豊市

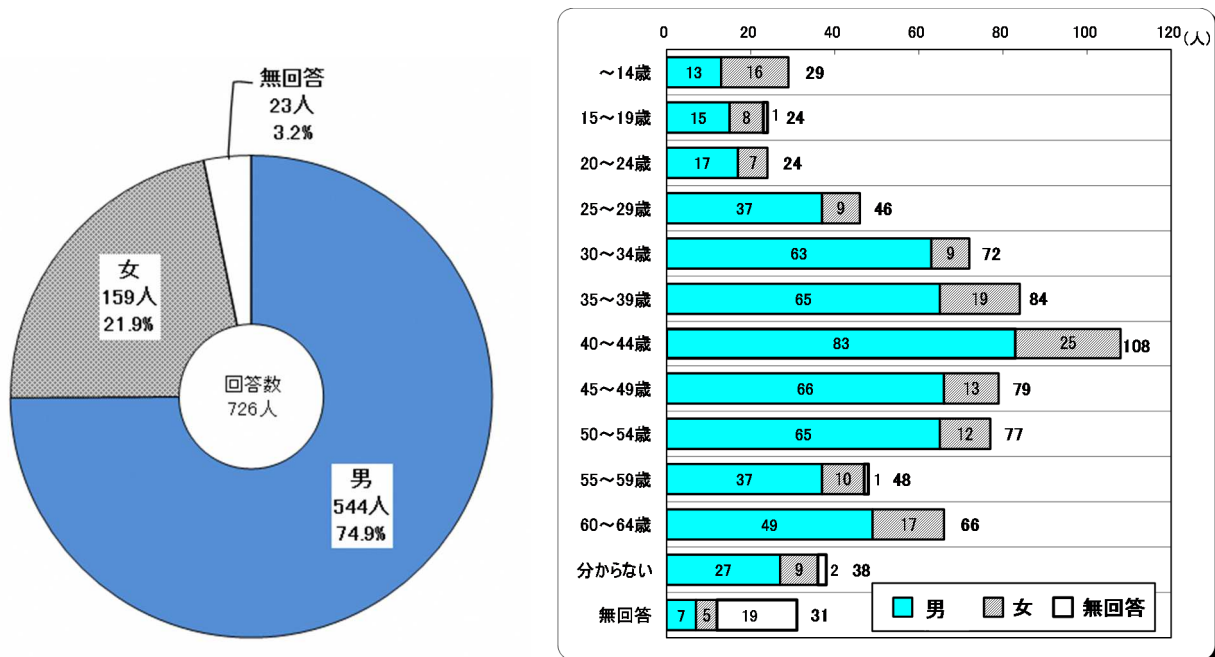
3 調査結果

(1) ひきこもりの状態にある方の人数



今回の調査結果によるひきこもりの状態にある方は726人であった。また、人口当たりの該当者の割合は0.07%（平成27年国勢調査 976,263人のうち占める割合）であった。

(2) ひきこもりの状態にある方の性別および年齢

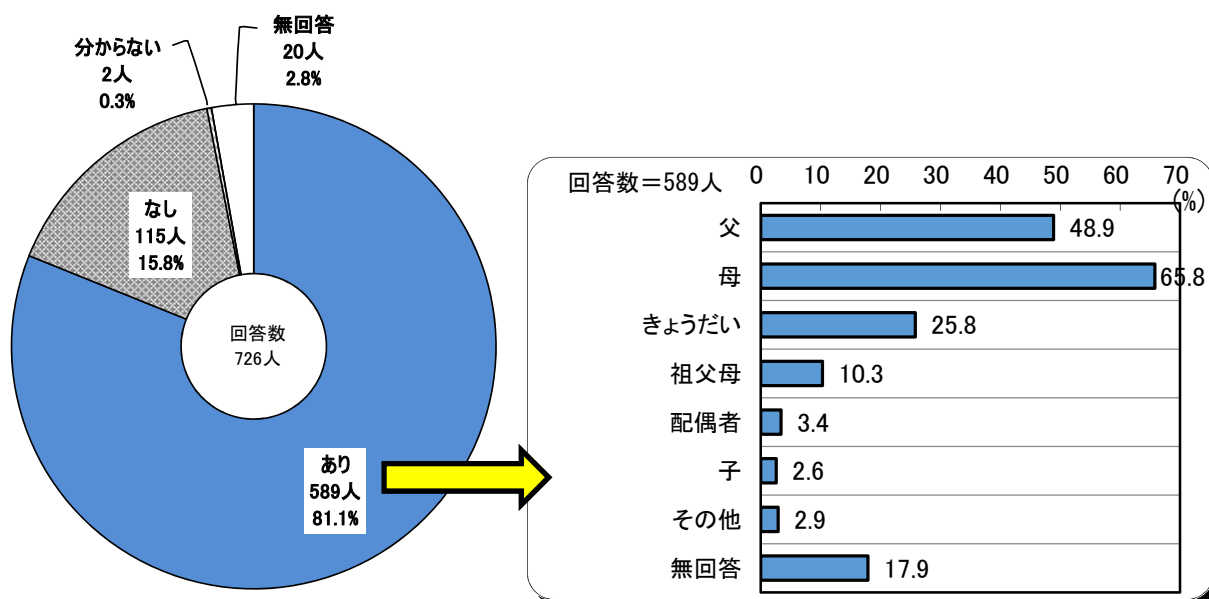


ひきこもりの状態にある方の性別について、「男」は544人(74.9%)、「女」は159人(21.9%)となっており、男性は女性の3倍以上であった。

ひきこもりの状態にある方の年齢について、「40～44歳」が108人と最も多く、次いで「35～39歳」が84人、「45～49歳」が79人となっている。性別にみると、「～14歳」を除いた全ての年代で男性が占める割合が高く、「～14歳」では女性の割合が男性を上回った。

(4) ひきこもりの状態にある方の家族構成

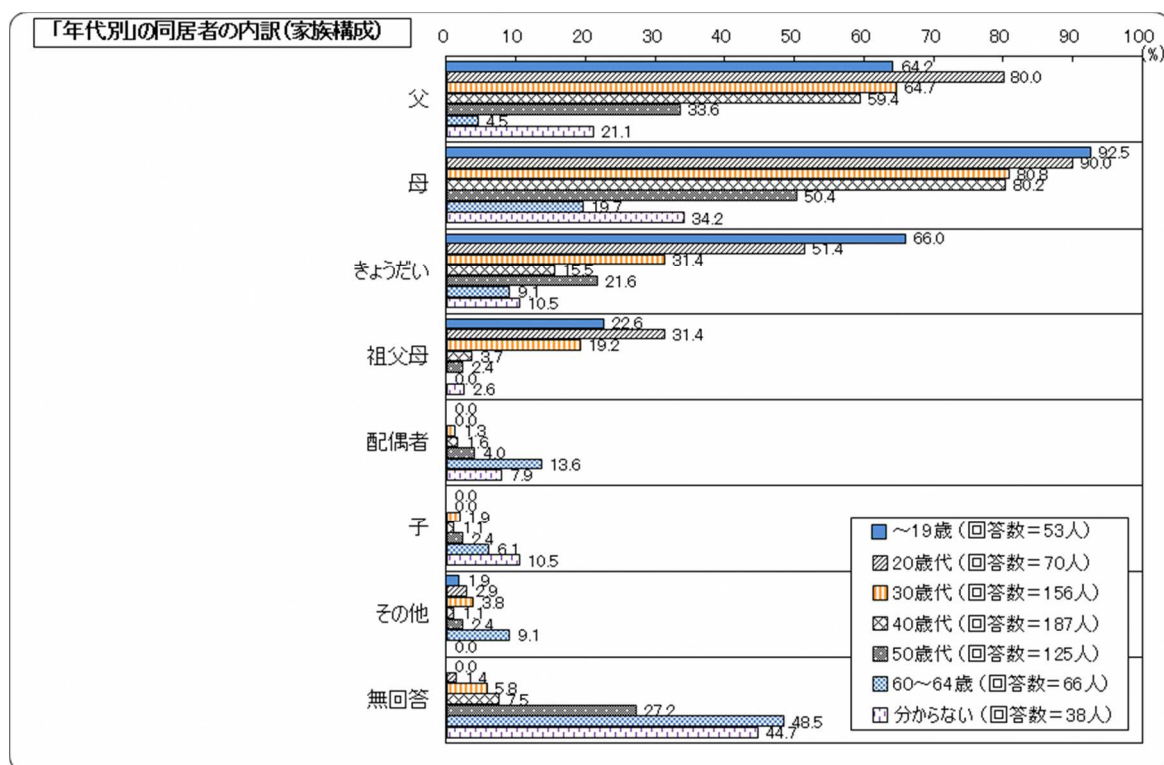
(同居者の有無および内訳)



同居者の有無について、「あり」が81.1%、「なし」が15.8%となっている。

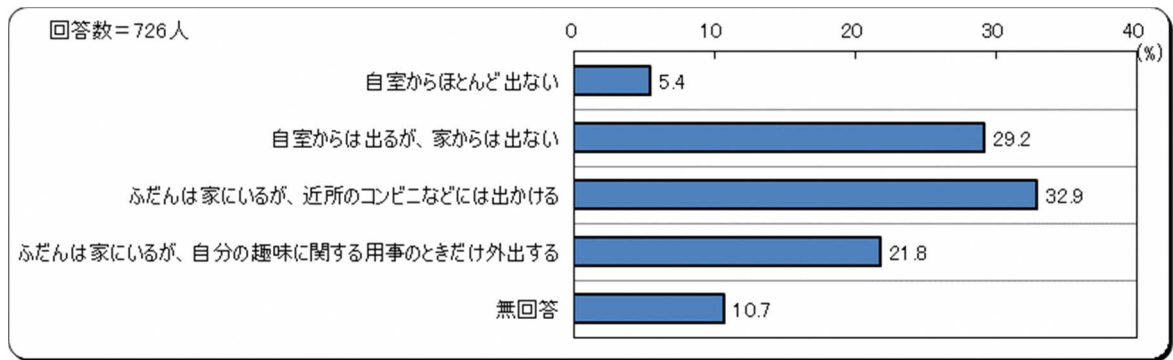
同居者の内訳(家族構成)について、「母」が65.8%と最も多く、次いで「父」が48.9%、「きょうだい」が25.8%となっている。

また、「その他」の回答では、『叔父・叔母』『義母』などの意見が多くみられた。

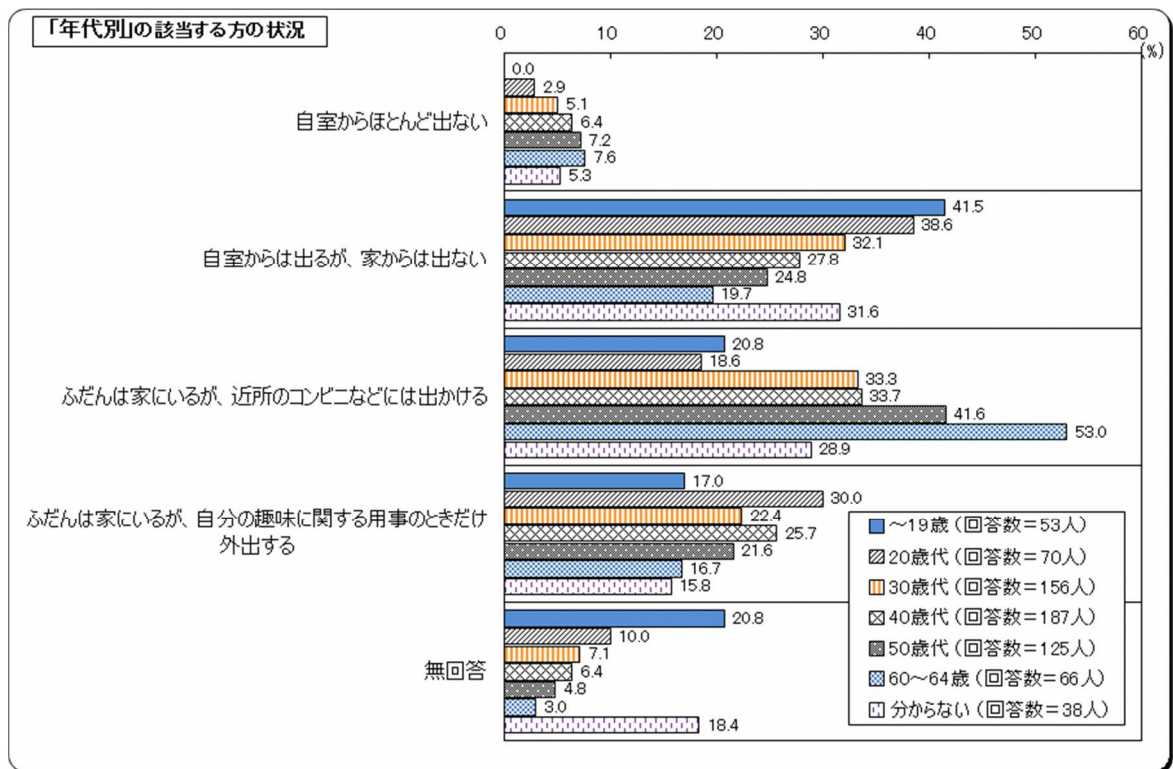


年代別にみると、40歳以下では「父」「母」「きょうだい」との同居が多く、60~64歳では他の年代に比べて「配偶者」が占める割合が多くなっている。

(5) ひきこもりの状態にある方の状況

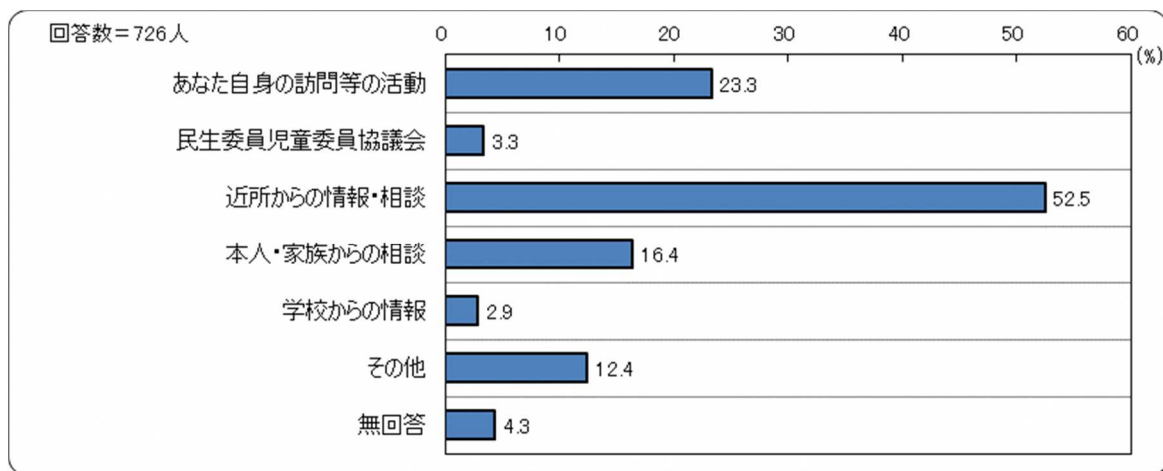


ひきこもりの状態にある方の状況について、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が32.9%と最も多く、次いで「自室からは出るが、家からは出ない」が29.2%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」が21.8%となっている。



年代別にみると、19歳以下と20歳代では「自室からは出るが、家からは出ない」が最も多く、30歳代以上では「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が最も多くなっている。

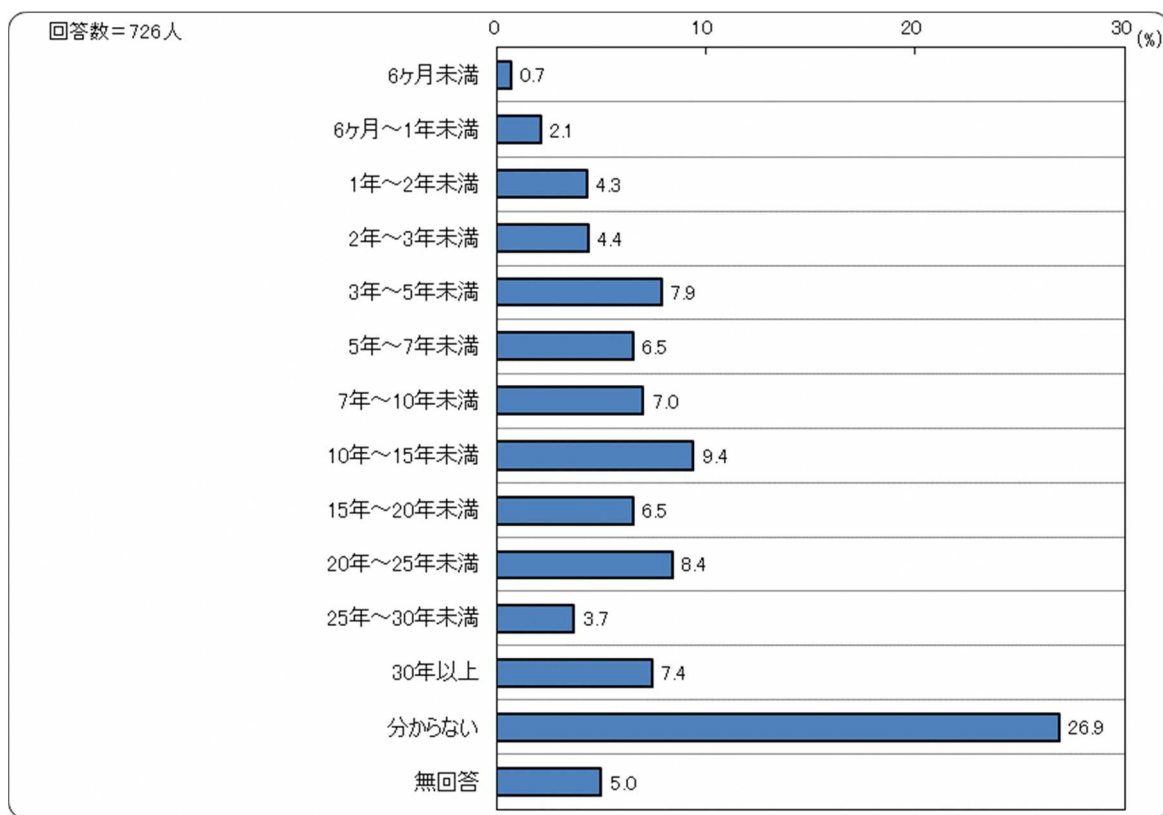
(6) ひきこもりの状態にある方の存在を知ったきっかけ



ひきこもりの状態にある方の存在を知ったきっかけについて、「近所からの情報・相談」が 52.5%と最も多く、次いで「あなた自身の訪問等の活動」が 23.3%、「本人・家族からの相談」が 16.4%となっている。

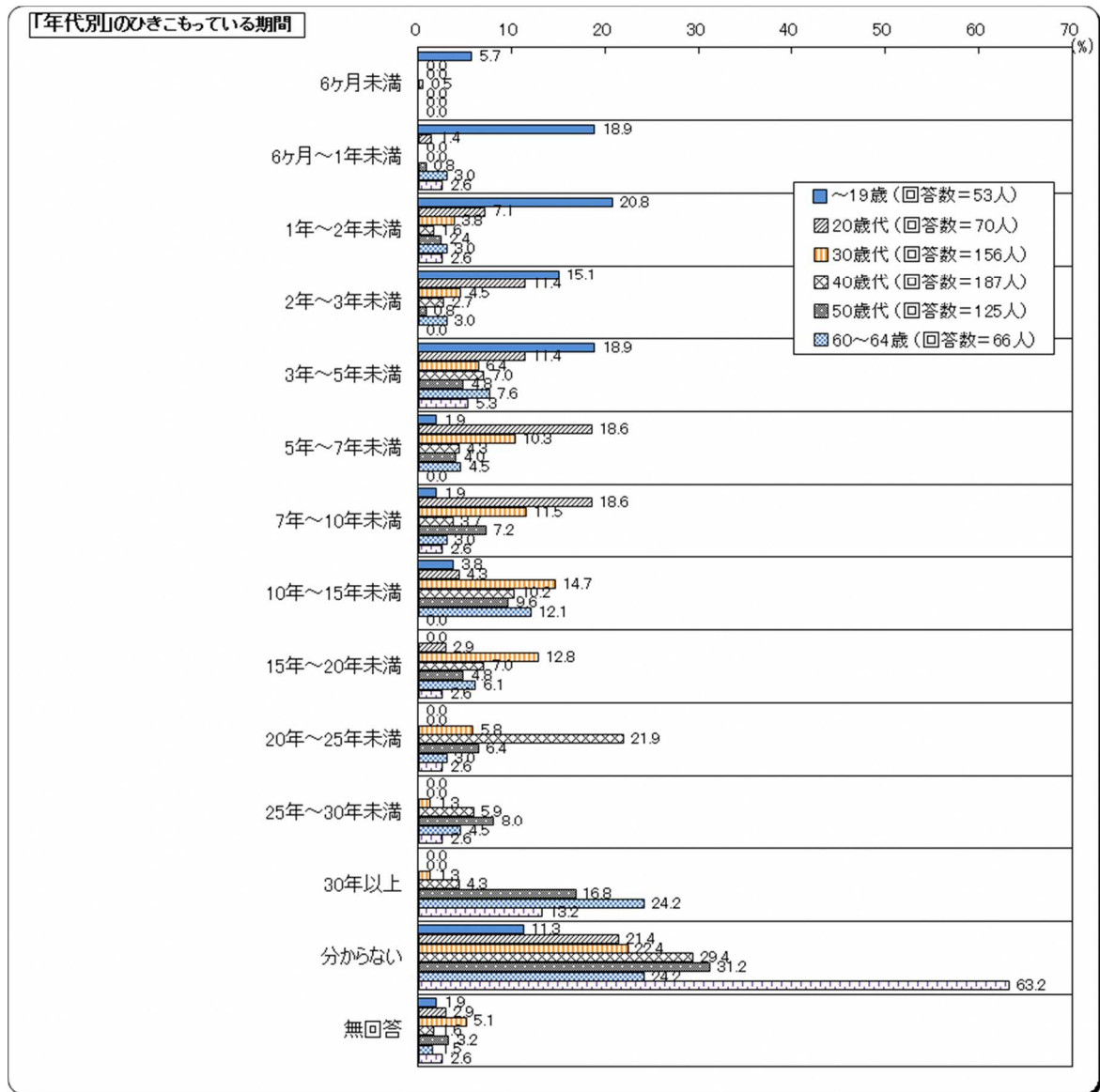
また、「その他」の回答では、『自治会長からの情報』『小さい頃から知っている』などの意見が多くみられた。

(7) ひきこもっている期間



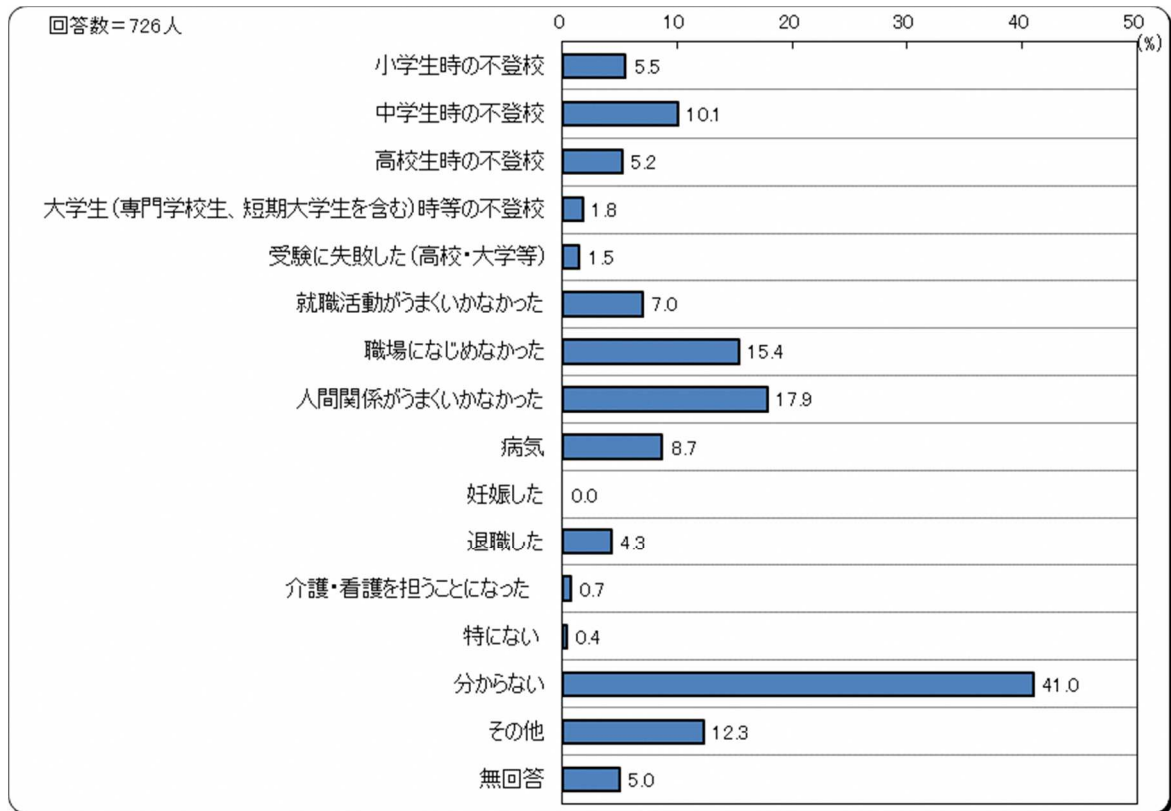
ひきこもっている期間について、「分からない」が 26.9%と最も多く、次いで「10～15 年未満」が 9.4%、「20～25 年未満」が 8.4%となっている。

ひきこもりに関する実態調査結果(概要)



年代別にみると、19歳以下では「5年未満」、40歳代では「20～25年未満」、55歳以上では「30年以上」がそれぞれ多く、年齢が高くなるにつれてひきこもっている期間も長くなる傾向がみられる。

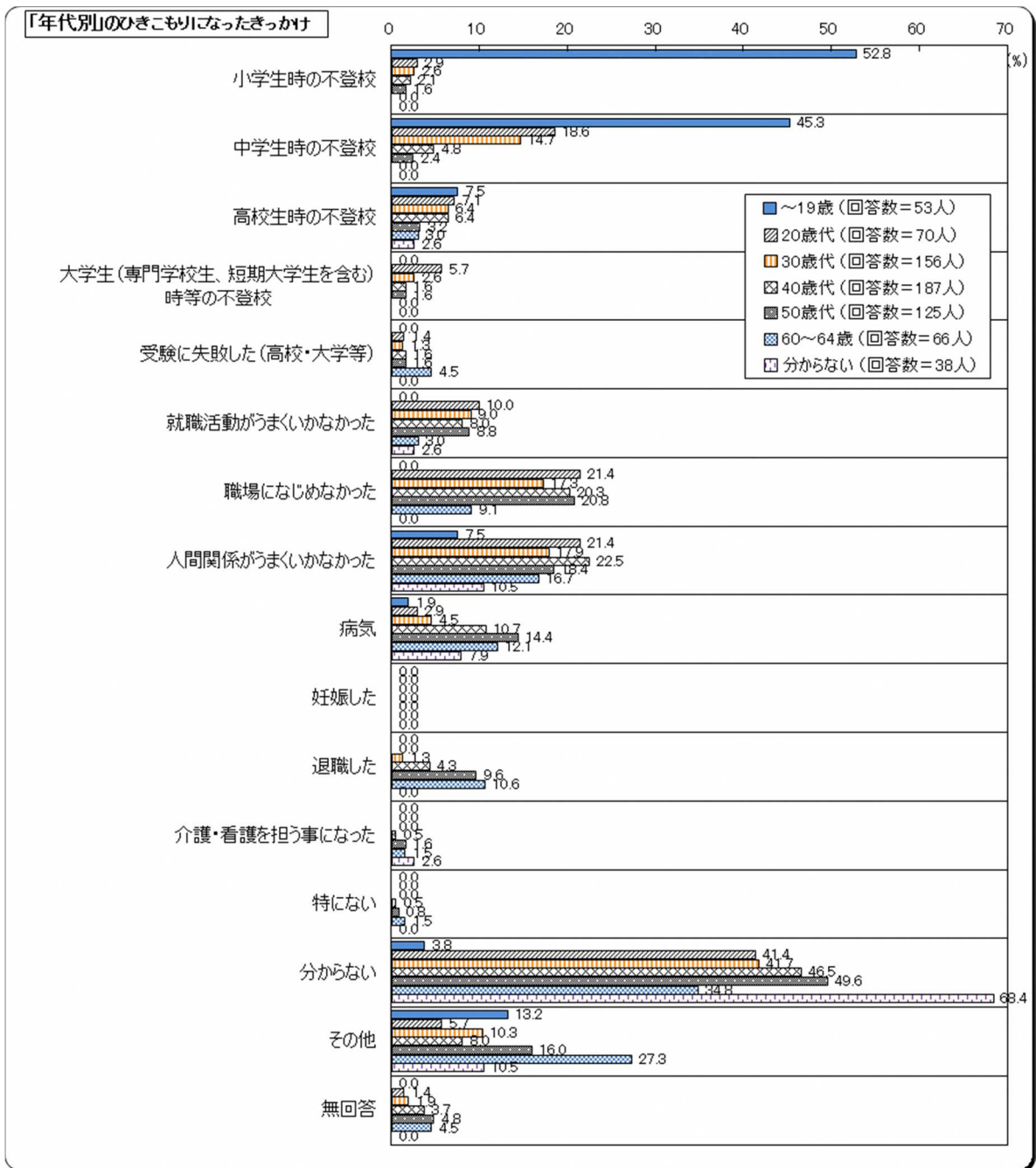
(8) ひきこもりになったきっかけ



ひきこもりになったきっかけについて、「分からない」が 41.0%と最も多く、次いで「人間関係がうまくいかなかった」が 17.9%、「職場になじめなかった」が 15.4%となっている。

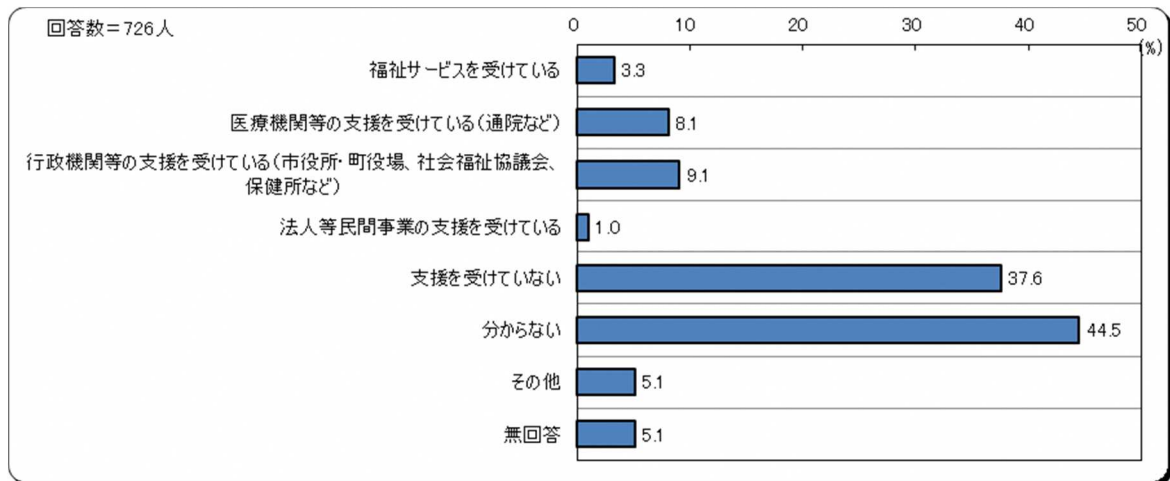
また、「その他」の回答では、『家庭環境の変化』『障害がある』などの意見が多くみられた。

ひきこもりに関する実態調査結果(概要)



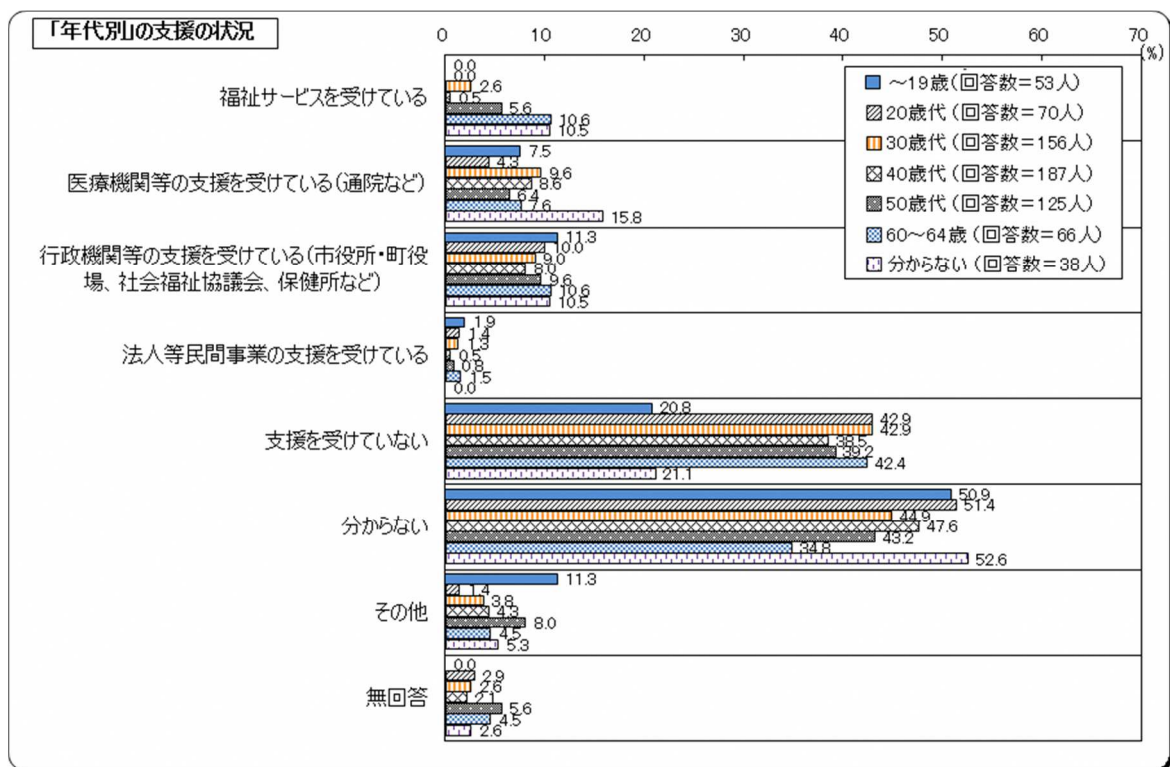
年齢別にみると、19歳以下では「小～高校生時の不登校」、20歳代以降では「職場になじめなかった」、「人間関係がうまくいかなかった」との回答が多くなっている。

(9) ひきこもりの状態にある方の支援の状況



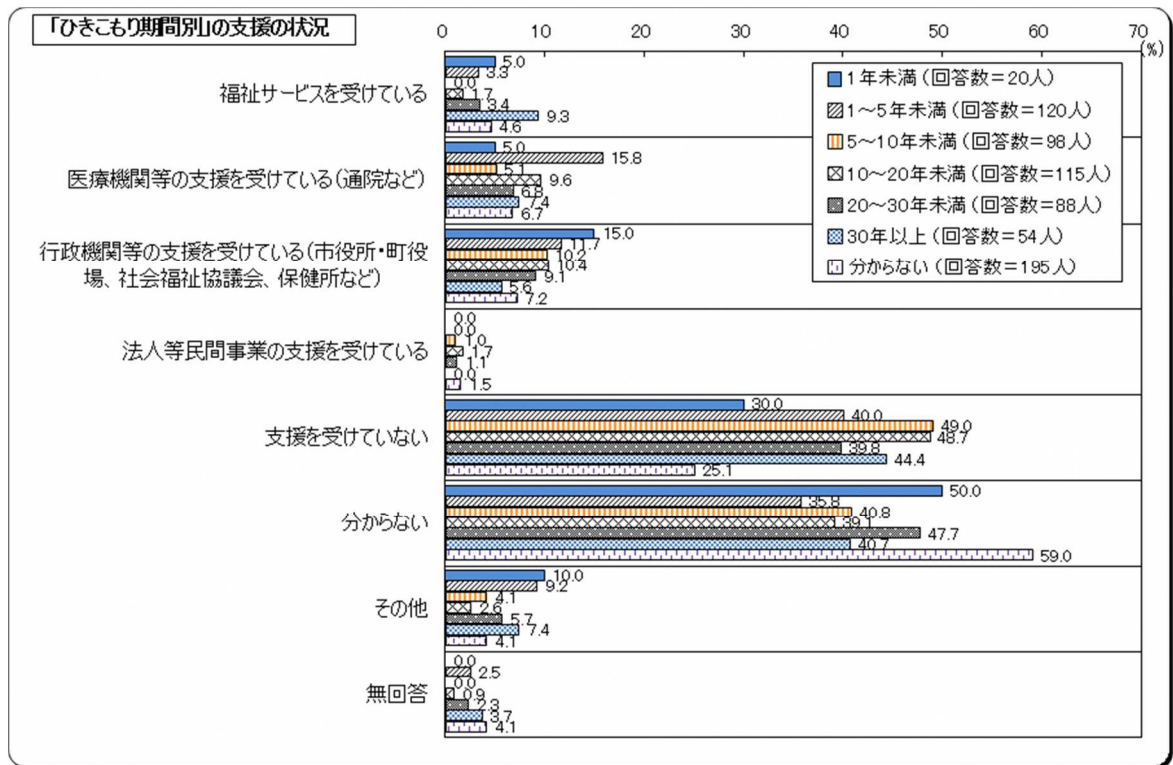
支援の状況について、「分からない」が44.5%と最も多く、次いで「支援を受けていない」が37.6%、「行政機関等の支援を受けている(市役所・町役場、社会福祉協議会、保健所など)」が9.1%となっている。

また、「その他」の回答では、『親族の支援』『学校の支援』などの意見が多くみられた。



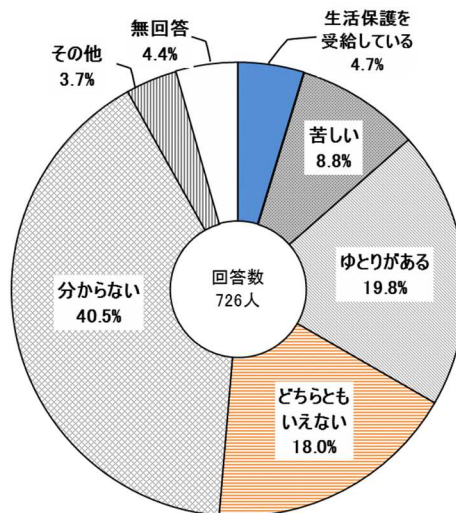
年代別にみると、60~64歳以外の年代で「分からない」が最も多く、60~64歳では「支援を受けていない」が42.4%と最も多くなっている。

ひきこもりに関する実態調査結果(概要)



ひきこもり期間別にみると、いずれの期間も「支援を受けていない」または「分からない」が最も多く、1年未満では「行政機関等の支援を受けている」が15.0%、1~5年未満では「医療機関等の支援を受けている」が15.0%と比較的多くなっている。

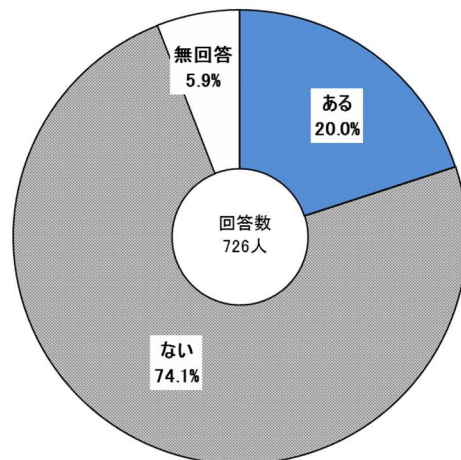
(10) ひきこもりの状態にある方の暮らしぶり



暮らしぶりについて、「分からない」が40.5%と最も多く、次いで「ゆとりがある」が19.8%、「どちらともいえない」が18.0%となっている。

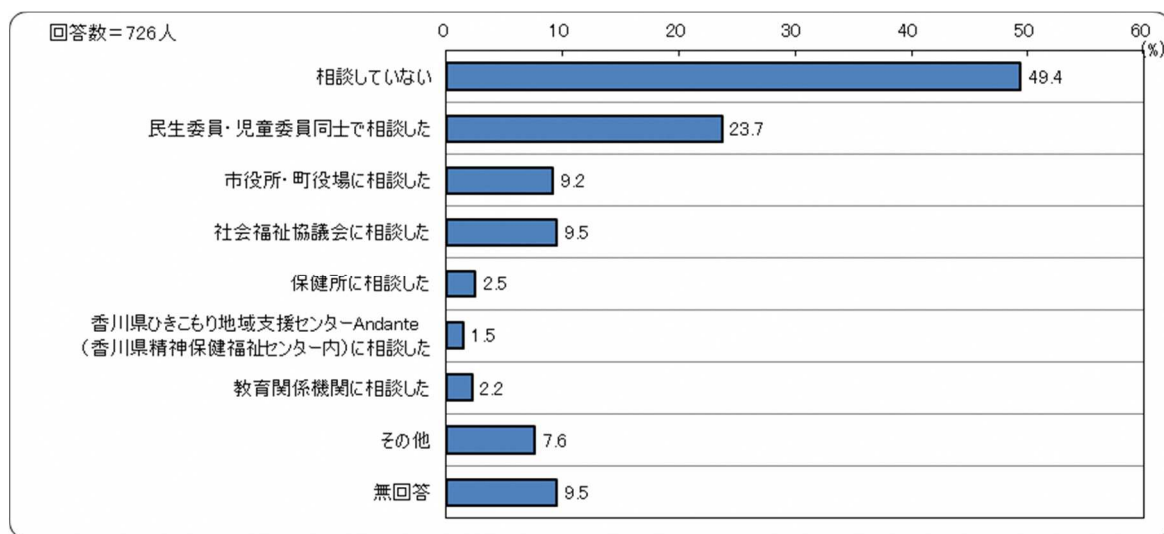
また、「その他」の回答では、『親族の収入で生活』『年金で生活』などの意見が多くみられた。

(11) ひきこもりの状態にある方の民生委員・児童委員のかかわり



民生委員・児童委員のかかわりについて、「ある」が20.0%、「ない」が74.1%となっている。
また、「ある」と回答された内容を尋ねたところ、主に『定期的な家庭訪問』『見守り、声かけ』などの意見が多くみられた。

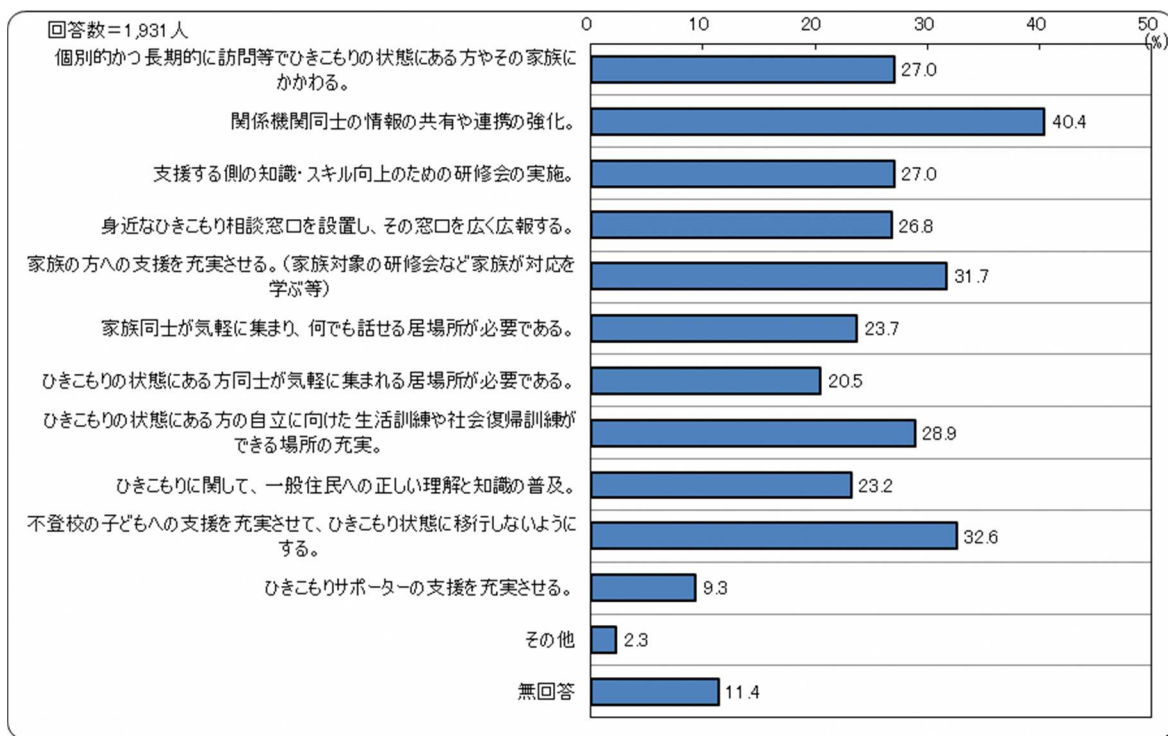
(12) 民生委員・児童委員の相談の有無



民生委員・児童委員の方の相談の有無について、「相談していない」が49.4%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員同士で相談した」が23.7%、「社会福祉協議会に相談した」が9.5%となっている。

また、「相談していない」理由を尋ねたところ、『対応方法が分からない』『関わりを拒否された』などの意見が多く、「その他」の回答では、『自治会長』『親族』などの意見が多くみられた。

(13) ひきこもりに関する支援策で必要と思うもの



ひきこもりに関する支援策で必要と思うものについて、「関係機関同士の情報の共有や連携の強化」が40.4%と最も多く、次いで「不登校の子どもへの支援を充実させて、ひきこもり状態に移行しないようにする。」が32.6%、「家族の方への支援を充実させる。(家族対象の研修会など家族が対応を学ぶ等)」が31.7%となっている。

また、「その他」の回答では、『個別対応』『知識、技術の向上』『相談しやすい環境の整備』『就労支援』などの意見が多くみられた。